

POS システム概論

POS システムを導入してくれと言われても、そもそもどういう機能があるのが POS システムなのか悩む方も多いと思います。

POS システムとは、POS レジなどと呼ばれる通り、簡単に言えばレジの事です。しかし単なる計算をする計算機のようなものではなく、売上を単商品の単位で集計し、その集計結果に基づいて売上げや在庫を管理したり分析を行ったりするシステムです。

POS システムの POS という言葉は販売時点情報管理(英語:Point of sale、略称 POS)-物品販売の売上実績を単品単位で集計することで、直訳すると「取引をする場所」となります。POS 以外にも、パソコン POS・POS システム・POS レジ・POS レジスタと呼ばれ、現在では POS レジシステムと、POS システムと様々な形で連携する周辺機器を総称してこの様に呼ぶことが多いです。

例えば、予約管理システムや在庫管理システム、オーダーシステムなど、お店の全てを連携させる事で情報の一元管理を図る態様などが主流です。

POS の導入においての最大の利点は、商品名や価格、数量、日時などの販売実績情報を収集するため、「いつ・どの商品が・どんな価格で・いくつ売れたか」を経営者側が把握しやすく、売れ行き動向を観察できる点です。また、購買商品と購入者の年齢層、性別、当日の天気といったデータを収集していることはよく知られています。

POS システムは主に、スーパーマーケットやコンビニエンスストア、ドラッグストア(薬局)、アパレルショップ、各種専門店、外食産業、ガソリンスタンド、ホテル、ドラッグストア(薬局)などのチェーンストア等で導入され、年々その機能が進化しています。こうした POS システムをタブレットやスマートデバイスなどを利用して、簡単に大幅にコストダウンした形で導入する事もできるようになり、簡易版が一般商店などにも普及しています。

POS システムの歴史

世界で最初の POS システムの誕生は 1878 年。米国のカフェ経営者によって生まれました。船の機関室のエンジンやボイラーなどの計器がデザインの原型となっているそうです。

遅れること約 20 年、1897 年に牛島商会在アメリカから pos システムを輸入したのが日本における POS システムの歴史の始まりです。当時のレジは入出金記録をとる金銭管理機能を中心とした事務機でした。ベテラン営業マンの月給が 40 円前後であった時代に、pos システム 1 台が月給の 50 倍もしたといわれています。

1910 年頃からは百貨店への導入が進み、加算機能や取引の明細とその合計の表示、レシート発行機能などが追加されていきました。

そして、1950 年から 1970 年代には第二次大戦後復興する日本とともに成長したスーパーの出現により、POS システムの普及、機能強化が進みました。

特にブームとなったのが部門別合計会計機能を搭載した POS システムです。8 部門設定する事ができ、青果、鮮魚、精肉など取り扱い商品を分類して販売管理を行う事ができるようになり、それまで店舗全体での売り上げ管理をしていましたが、部門別管理ができるように進化を遂げました。これにより、ファクトベースでの売り場面積の変更や取り扱い商品の変更を実施するなど、マーケティングの観点でも大いに POS システムが活用されるようになりました。

POS システムの機能まとめ

1. 売上げの登録機能

商品の金額を打ち込んだり商品コードをスキャンするなどして、その商品情報をデータベースに登録し、管理する機能です。

この際クラウドを用いて、データをクラウドに保管することで大容量な情報に対応したり、他の周辺機器との情報と統合して管理する事ができます。

2. お釣りの計算機能

今では自動つり銭機も珍しくなくなりましたが、預かった金額から商品販売合計金額を差し引いたつり銭金額を計算する機能です。

3. 決済機能

クレジットカードの利用や、電子マネー決済が大きく普及した昨今、頻繁に使われる機能になりました。電子マネーがスマートフォンなどモバイル製品などのできるようになり、その存在はますます重要視されています。

4. 売り上げ分析機能

売上向上施策のための高度な分析機能がついた POS レジも珍しくなくなりました。

ABC 分析による在庫調整や重点商品の販売促進や、RFM 分析・CPM 分析による顧客の囲い込み施策など、POS レジの情報を活かしてあらゆる角度から現状分析をすることができます。

5.売上ジャーナル機能

レシートと同じ内容の売り上げ記録を店側で保管しているものを、売上ジャーナルと言います。

原則として売上ジャーナルは7年間紙で保持することが義務付けられていますが、税務署に申請すれば紙ではなくPOSシステムに登録されている電子データのままで保管しておく事ができます。

このほか、ジャーナルは売価の確認や、商品返品時、レジの打ち間違い等があった場合に、客側のレシートと照合する目的もあり、両替操作、キャンセル操作などのレジでの操作も記録できます。

6.商品情報登録機能

商品について、名称や値段、メーカーや種類などについて登録することができる機能です。

基幹システムにあるマスタ情報とPOSシステムを連携する事が多いですが、基幹システムと連携できないPOSパッケージだと、難しい事が多いです。この点でPOSシステム導入に当たって重要な選定ポイントと言えるでしょう。

※商品が切れたなどの在庫管理システムもPOSシステムについていることが多いですが、別在庫管理に特化した新たなカスタマイズシステムを導入して管理している事が多いです。商品の発注依頼も機能の一部と言えるでしょう。

7.顧客情報登録機能

顧客がいつ来店して、どの席に座って、何を頼んで、どういう支払い方法をとって、などの情報を固有情報として登録する機能。

これを活用して、次回来店時におもてなしをする(たとえば何が好みかをあらかじめ把握して、電話予約の際に提案するなど)機能を追加カスタマイズで付与したりするが、こうした機能も昨今老舗料亭や宿泊施設などでリピートの際のおもてなしによる顧客満足度の向上施策などとして導入が進んでいます。

8.勤怠管理機能

従業員やアルバイト・パートなどの出勤退勤の登録を行う機能が付与されているPOSシステムも少なくありません。

9.オーダー管理機能

飲食店でのオーダーエントリー(注文受付)業務に最適化された機能。タブレットやスマートフォンなどで実施しているところも多く、現在では POS システムだけで利用している方よりも、組み合わせて利用している方がスタンダードです。

10.在庫管理機能

日々の在庫管理から棚卸までを一括で管理する機能。会計情報と在庫情報が連動し、自動的に在庫数が更新されます。入出庫情報や、複数店舗の在庫を一元管理。

11.予約管理機能

インターネットから予約の受付を行うことができます。お客様の前回の来訪字の情報や電話受付時の情報、さらには再度来訪事の情報なども管理して、お客様ファーストの接客を実現します。

21.EC 連携

実店舗のデータとネットショップのデータを同期する機能。

リアル店舗をメインでネットショップも運営されているお客様の場合、POS システムを導入されていることが多くあります。商品情報、販売情報、在庫情報は POS システムを基準として管理するため、ネットショップの情報を連携する必要があります。

POS システム市場の最新の流れ

まず 2010 年ころからタブレット型の POS システムが登場し、それまで高額で導入できなかった小売店や飲食店などが POS システムを導入し始めました。

さらに、2013 年後半から 2015 年度に無料の POS システムが複数登場することになり、導入を迷っていた層も続々と参入するようになりました。

こうして、それまでの POS システム市場は大きな変革を遂げました。

飲食店や小売店を訪れると、タブレット型の POS を良く見かけます。

世界規模でもタブレット POS 導入の勢いは加速している現状です。

では、従来型の POS システムよりは安い機能が機能面ではどうでしょうか？

実は機能面でも、従来型の POS システムに遜色ない機能を兼ね備えるようになっています。

また

- ・インバウンドによる爆買い対策としての免税店舗の増加に伴う対応
- ・消費税増税への対応(軽減税率への対応)
- ・電子マネーやクレジットカード等への対応

など新しい社会のライフスタイルに合わせた機能もしっかりと対応している

スマートデバイス型の POS システムも多く登場しています。

こうした流れは今後、ますます加速するものと見られています。

その一要因として、国の助成金や補助金も追い風になっています。

消費増税に伴い導入される軽減税率の対応が必要になる事業者には一定の要件で国から補助金が出ることになりました。

軽減税率対応レジへ入れ替えた場合その費用の 3 分の 2(上限 20 万円)までの補助を負担する内容になっており、タブレット型の POS システムはおよそ 10 万~20 万程度で導入できますから、数万円で高機能な POS システムを導入する事ができます。

こういう点でもタブレット型の POS システム導入は加速するものと考えられています。

また、近年はオムニチャネルというキーワードを元に拡張性を求められており、在庫管理、オーダーシステム、予約管理、さらにはオンラインサイトを持っている場合はそれとの連携が必要となり、拡張面という要素が検討する際には必要となっています。

無料 POS レジ？

メリット 1

コスト削減

一般的な POS システムの場合、レジ端末価格が 10 万円以上で、販売情報集計システムの導入費用などを含めると、初期費用で 100 万円を超える場合があります。

しかし、タブレット POS レジシステムの場合、安価なタブレット端末を利用することで初期費用を 10 万円以下に抑え、クラウドサービスと連携させることで月額数千円から利用できるサービスもあります。高価すぎて従来の POS レジの導入に踏み切れなかった零細企業、個人事業者がタブレット POS システムを導入し始めています。

メリット 2

豊富な管理機能

リアルタイムな売り上げ管理

全店の売り上げがオンライン上にリアルタイムで反映・集計されるので、店舗が複数ある場合、店舗と本部が離れている場合でもリアルタイムな売り上げ管理がタブレット POS システムならできます。

簡単な在庫処理

返品・誤打の訂正・廃棄処理といった売り上げにならない在庫移動にも対応しています。タブレット POS システムなら手入力での在庫調整が完結するので、面倒な作業がありません。

担当者別に売り上げ計上

POS レジの担当者を店舗ごとと全店共通で設定することができます。担当者別に売り上げを確認することもできるので、アルバイトの管理や引継ぎ、後日の返品対応などにも役立ちます。

メリット 3

充実した分析機能

販売データをクラウド上で集計し、商品ごとの売り上げ傾向を分析できます。

ABC 分析による在庫調整や重点商品の販売促進、RFM 分析・CPM 分析による顧客の囲い込み施策など、POS レジシ

システムの情報を活かしてあらゆる角度から現状分析ができます。蓄積された CRM 情報をもとにお客様が買いそうな商品を POS システムが分析するので、スタッフのスキルに頼らない高度な接客が可能になります。

メリット 4

プロモーションツールとしての活用

事前に商品画像と詳細情報をタブレット POS システムに登録しておけば、商品が手元になくてもその場で紹介・会計処理を行うことが可能です。

欠品時やイベント、他店舗や EC サイトで扱っていてもその店舗で扱っていない商品がある場合など、様々な場面で取りこぼしを防ぐことができます。

また、商品知識の少ないスタッフでも、タブレット POS システムならその場で商品の詳細情報を確認し正確な情報をお客様に伝えることができるため、接客の質の向上につながります。

メリット 5

持ち運びができ、 すっきりしたレジ周りを実現

PC 型の POS レジが大きく、動かすことが難しいのに比べ、タブレット POS レジシステムはどこにでも持ち運びできる点がメリットです。見た目にもスタイリッシュで、インテリアや雰囲気こだわる業種にとってタブレット POS システムが喜ばれています。

実際にタブレット POS システムを選択した店舗からは、「せっかく内装にこだわった新店舗に、大きなレガシー POS レジを置きたくなかった」という声も多く聞くことができました。

メリット 6

アルバイトでも簡単利用

タブレットの直感的な操作性によって、機能を覚えるまでの手間が省かれ、ひとつひとつの作業の効率化が可能になります。ボタンの配置などを覚える必要がないため、タブレット型の POS レジシステムなら年配のスタッフでもすぐに使用することができます。

人材育成にかかっていた時間やコストを削減できるため、イベント開催などで一時的なアルバイトを雇用することの多い企業にとって、導入の決め手になるポイントです。

メリット 7

EC 連動

ネットで売れても店舗で売れても在庫は一元管理したいところです。タブレット POS システムと EC サイトを連動させることで、これまで手作業だった在庫調整が不要になり、EC と店舗の相互送客や WEB 上の顧客情報、購買履歴を利用した店舗プロモーションなど、多様な売り上げ向上施策が可能になります。EC サイトを運営する企業にとって非常に便利な機能といえます。

メリット 8

機能追加しやすい

店舗の規模・業態に合わせて POS システムにハードを組合せることができるので、店舗の拡張にも無駄な投資が必要ありません。また Web ベースのシステムなので、商品特性やターゲットに合わせた機能拡張・外部システムとの連携も可能です。